

VOICE

三好町では、心の通う対話の町政を進めていこうと、皆さまから町政に対する意見をいただく対話集会「皆さまと語る会」を開催しています。こうしたなか、今年度はそれぞれの会でテーマを決めて実施。その第三回目となる「皆さまと語る会」が8月9日、「ごみの減量とリサイクル」をテーマに教育学習センターで行われました。

今回は、語る会で皆さんから寄せられたご意見と町長の発言要旨、そして「皆さまの提言箱」、電子メールなどで寄せられたご提言とそれに対する三好町としての考え方を抜粋で紹介いたします。

◆開催テーマ「ごみの減量とリサイクル」 8月9日(土)開催 21人参加

住民 各学校の廃品回収について、町と学校と業者間のお金と物の流れを明確にし、PTAに補助金を出すことが本当に意味があるのかどうか、検討してほしいと思います。

町長 廃品回収について、かつては高い値段で引き取っていた時代もありましたが、最近では逆にお金を出して引き取ってもらわなければならなくなったということも聞いています。補助金というものは、3年から5年といった打ち切り、再検討をしてその後どうするかを考えていくというのが本来の趣旨です。しかしいったん補助金を受けると、その後は変わらさず受けられるものだという受け手側の心理もあります。これまでは特定の人ではなく、組織として補助金を出すことで良しとしてきた経緯があり、現在役場の中でもプロジェクトを組んで、補助金について議論しています。

住民 最近、放置自動車が多く困っています。法的な制約があり、撤去までに非常に時間がかかるようですが、近隣の市町では放置自動車判定委員会などを設けて迅速に片付けているところもあると聞きます。目につきやすい場所にある放置自動車の撤去を、素早くお願いしたいと思います。

町長 かつては1台いくらかで引き取ってもらえましたが、今は処分をするのにお金を出さなければいけない時代になってきています。三好町はまだまだ田畑が多いので、空き地へそのまま車を捨てて逃げていってしまうこともあると聞いています。また放置自動車が町の道路にあれば町が片付け、民地であればその人が片付けなければならぬというように、放置場所によって処分をする対象が違うことも、放置自動車の処分を難しくしている要因の一つです。放置自動車を見つけても、すぐに処分することは難しいですが、できるだけ迅速に処分できるように努めていきたいと思っています。

住民 ごみの排出量の削減対策は何か行っていますか。また資源回収についてリサイクル率はどうなっていますか。また「ごみの減量とリサイクル」の量の「ごみが分別されていないのか」という背景が分かることで、今後どのように分別を推進していくかという検討ができればと思います。役場職員の方が住民の立場に立って、品質管理(QC)活動やチャレンジ活動をしてもらいたいと思います。

町長 ごみの減量は重要な問題です。ごみ焼却場も二代目になり、現在は三好町・日進市・東郷町を一つの地域、尾三管内としてごみの

具体的にはまだ決まっていますませんが、ご提言いただいたことに関して、しっかりと受けとめ、この話に限らず補助金と名のつくものがあり方について、考えていきたいと思っています。**住民** 現在、資源回収によって業者から収入があるということは、町で価値ある資源が回収されていることだと思えます。しかし学校での廃品回収では、還元されるべき収入がないように思われます。その辺りを調べていただき、各PTAが業者と交渉できるようにバックアップを町にしていただけではないでしょうか。

町長 廃品回収については、学校ごとで業者と契約しているというところですが、そのことについて補助金を出しているということは、その使い道も知っておかなければなりませんので、きちんと把握するように調査します。ある一つの流れが長く続いていると、その流れに乗り続けてしまう部分もあり、この補助金についても、いったん出してしまおうと、例えばその金額を減らすことなどは、なかなか言い出せなかったのが従来の流れだったと思います。補助金を打ち切ることが前提ではありませんが、今後は学校教育課とも連携を取りながら、お金の流れについて、より明確にしていきたいと思っています。

住民 資源ごみの回収について、町内にも資源回収業者がいるのに、あえて町外から業者を選んでるのはなぜですか。

町長 行政が行う事業における業者の選択には、入札という制度を用います。これは、あらかじめ業者に登録をいただき、その中から入札という形で業者を決定するものです。業者には2年ごとに登録をしてもらわなければ



ごみ焼却施設「東郷美化センター」

焼却を行っています。合併の話の中で豊田加茂地域についての協議は進めてきましたが、尾張地域については話が進んでいません。さしあたって単独という形で決めましたが、全体的なごみのエリアについては、豊田加茂・尾張どちらの地域に属するにしても十分考えていかなければと思っています。単純に数字を割り返しただけでは、実態に即していないのではないかと、そういう意見はもっともです。結局行政としては出てきたものの数値を割り返し、一人あたり何グラムという出し方しかできません。より深くこの問題を追求し、できる限り前向きに進めていきたいと思っています。

住民 スーパーなどでダイオキシンの発生しないレジ袋を使用し、それを町指定のごみ袋として利用しているところもあるのですが、三好町でも同じようにできないでしょうか。また遊歩道沿いに住んでいます、秋から冬

ばならず、その登録に漏れてしまうと指名業者になれないため、入札に参加できないのです。なお通常は3社以上で入札を行い、現在のこの資源ごみ回収事業に関して登録している業者は3社。この中に、三好町内の業者は登録していません。

住民 家の周りは山道で、豊田市との境に位置しますが、ペットボトルやコンビニの弁当の空き箱などがよく捨てられています。コンビニで弁当に色をつけてもらうなどして買った人のモラルに問いかけ、お店に注意してもらうことはできないでしょうか。

町長 弁当の空き箱が、随所に捨ててあるのを見かけます。たばこも同様で、車に灰皿があるにもかかわらず、窓から捨てているのを見かけます。ごみのポイ捨ては個人のモラルの問題ですが、捨てるように一人ひとり心掛けることが大切だと思います。またご提案いただいたコンビニ容器に色をつけるということは、町では簡単にはいかならないと思いますが、面白い提案ですので、考えていきたいと思います。

にかけて落ち葉が多く、指定袋に入れて出すのですが、とにかく量が多いので、環境課に申請するごみ袋の補助などをしてもらえないでしょうか。

町長 スーパーの袋については、そうした方法をとっている市町村があると聞いたことがあります。しかし三好町は、尾三管内で同じ歩調で行っていますので、ほかの市町と検討しながら対応していきたいと思っています。また落ち葉の件につきましては、初めてお聞きしましたので、今後の検討課題にしていきたいと思っています。

住民 リサイクルバックで瓶用と缶用をいただきましたが、プラスチック製容器包装の分別が始まりましたので、その分もいただけないでしょうか。

町長 リサイクルバックは現在、瓶と缶のみしかありませんが、同じものでよければ、申し出ていただければお渡しします。



皆さまの提言箱

意見 6月に環境省から紫外線保健指導マニュアルが発行されました。紫外線の浴びすぎによる健康への影響について書かれています。現在子どもたちが危険な状況にあること、そしてわたくしたち保護者がその事実を知り、行動しなければならぬことを深く思い知らされました。紫外線対策について三好町では、保育園でも小学校でも何の対策もなされていないように感じられます。未来を担う子どもたちのためにも、何らかの紫外線対策をたててほしいと思います。(電子メール)

答え 紫外線対策については、紫外線保健指導マニュアルが環境省において作成され、活用するように文部科学省から依頼がありました。これを受け町でも、マニュアルを参考に適切な対応をするように町内各小中学校長あてに依頼しています。各学校では、炎天下に屋外へ出るときには帽子をかぶること、日中に長時間外で活動するときには、必ず木陰などの涼しいところで休憩をとるなどの指導をしています。

意見 保育園においても、普段の戸外活動時には帽子をかぶり、暑い日には木陰や涼しいところで遊ぶなどの工夫をし、常に水分補給をしたり休憩をとるようにしたりしています。紫外線対策については、各家庭でも子どもさんが外出するときには、帽子をかぶるなどの注意をしていただくなどして、今後も家庭と学校・保育園が連携して取り組んでいく必要があると考えています。(担当 学校教育課・児童課)

意見 医療機関で受診したあと、国民健康保険のお知らせが届きました。これには封筒の表書きに「国民健康保険医療費のお知らせ」と記入してあったのですが、プライバシー保護のためにも、この文字を省略していただけないでしょうか。(提言箱)

答え 医療費通知の様式については、愛知県の様式に準じて作成しています。今年については、既存の様式です。印刷済みであるため、従来のままの通知でご理解いただきたいと思います。来年以降につきましては「国民健康保険医療費のお知らせ」の文字の削除・変更について検討していきたいと思っています。(担当 保険年金課)

意見 夏休み親子映画鑑賞会に家族で参加し、楽しむことができました。こういった親子で楽しむもので、子どもでも分かるような簡単な親しみやすい落語を扱った会を、サンアートの企画していただけないでしょうか。(電子メール)

答え 親子映画鑑賞会にご参加いただき、ありがとうございます。おかげさまで皆さまにも好評をいただいています。サンアートでは、夏休みのファミリー交流事業として「夏休みファミリーショップ」事業を実施しています。そこで来年度の事業の中に、親子で古典落語を聞き、その後落語に対する質問や裏話を話してもらえようという企画も視野に入れ、検討していきたいと思っています。また教育学習センターの講座については、「落語家による講演会」としての開催は考えられますが、ご提言いただきました、親子で

7月25日に行われた「サンアートバックステージツアー」



意見 役場の職員の皆さんに要望なのですが、仕事をするときにはスリッパや草履などではなく、靴を履いていただきたいと思っています。(提言箱)

意見 来庁される皆さんに不快な思いをさせないよう、勤務中のスリッパや草履については、自席のみの使用とすることにしています。今回、勤務にふさわしくない服装は着用しない、名札は必ずつける、草履は自席のみで使い、草履では歩かない、という点の周知徹底を図りました。今後も職員の接遇の向上を図っていきます。(担当 人事課)

コラム column



連載第18回

食を守り、緑を守る

8月のお盆過ぎから暑さがふり返し、9月に入ってもその勢いは衰えることなく、まるで季節が1カ月ずれた感じでした。異常気象、取り分けて冷夏は農作物に大きな被害を与えます。最近では平成5年がその最たるもので、稲作の作況指数は74と大幅な減収でした。今年はそれに次ぐといわれています。現在進行形であり十分な判断はできませんが、指数の低下は確実でしょう。しかし天候の回復具合やこれまでの経験から、平成5年ほど被害はひどくないだろうと予測しています。

食料は、安全なものが安定して供給されてこそ、安心が得られるもの。現在ではコメをはじめ、いろいろな食料がすべて海外から入ってくる時代です。しかし先進国日本が今のような状況でよいのでしょうか。メキシコで世界貿易機関(WTO)の第5回閣僚会議が9月に開催されました。しかし、先進国と途上国の亀裂が埋まらず、

交渉は決裂。多角的な貿易自由化のための新たな交渉(新ラウンド)の中間合意となる閣僚宣言の採決は断念されました。会議において日本は農業分野で関税の上限を設定することに反対の立場をとっています。今後も厳しい状況は続きそうです。

食を守るということは自給率を高めることにほかなりません。新農業基本法に定められた自給率45%という目標値は、今の段階で40%を下回っています。目標値にどこまで届くことができるのか。基幹農業従事者の中で、65歳以上が占める割合が53・9%と高率になっています。この数字一つを見ても、目標達成は困難であるといわざるを得ません。若い農業者が極めて少ない現在、農業従事者の高齢化はますます加速し、わが町も決して例外ではないのです。

「地産地消」という言葉が、クロースアップされています。地域で生産したものは、地域で消費する。その単純なものが産直です。衰退する都市近郊農業を守る一つの手段になっています。

多面的機能を持つ田・畑・果樹園は貴重な生産緑地です。これらを荒廃させないことが、わが町の食を守り、そして緑を守ることにつながります。そのための方法を、皆さまと共に考えていきたいと思います。

三好町長
久野知英



毎月第4木曜日に行う館内整理

用します。また図書の整理などで定期的な休み以外に休館すると、そのことを知らずに遠方から来た人は二度手間になってしまふ可能性があります。夏休み中の図書の整理をやめ、せめて夏休みに入る前にしてほしいと思います。(提言箱)

(担当 中央図書館)

答え 図書館では、皆さまに快適に図書館を利用するために、図書の整理、消毒、書架移動など、図書館全体にかかわる館内整理業務を毎月第4木曜日(利用状況に応じて適宜変更)に定期的に行っています。図書館の休館日については、広報みよしや図書館ホームページ、受付窓口、館内掲示などを通じて年間計画を案内しています。今後も利用者である皆さまが、事前によく分かるよう、告知に努めていきたいと思っています。

皆さまからのご提言をお待ちしています

三好町では、心の通う対話の町政を進めていこうと、町政に対する皆さまからの提言をいただくため「皆さまの提言箱」を設けています。

▶設置場所=役場、サンネット、サンアート、町民病院、総合体育館、中央図書館

※提言は「皆さまの提言箱」のほか、下記のいずれかの方法でも受け付けています。

①電子メール…☒teigen@town.miyoshi.aichi.jp

②ファクス…☎(32)2165

③郵便…〒470-0295 三好町役場広報情報課あて(住所不要)

広報情報課 ☎(32)8357

